

〔目的〕人体の皮膚表面における温熱感受性は、同一温度刺激量であっても部位によって異なると報告されている。今回は冷刺激に対する冷感受性の部位差をSchefféの一对比較法により検討したので報告する。

〔方法〕局所冷刺激の負荷には、直径2cmの鉄製プローブを10℃に冷却したものを用い、2本のプローブを異なった皮膚面に同時に3秒間接触させた時の冷感覚を、3段階アンケート（より冷たい—同じ—より冷たくない）により自己申告させた。対象部位は、前面14部位および後面11部位である。被検者は、気温25℃および30℃、気湿50%、気流0.1m/secに設定された人工気候室に入室し、椅座安静30分後、立位にて前・後面のサーモグラフィを撮影。その後サラン製ベットに側臥位をとり、前・後面の対応部位を一对とする冷感受性テストを行った。次に、仰臥位で前面の、伏臥位で後面の冷感受性テストを行い、この時、各面内の測定順序および組合せはランダムとした。被検者は健康な成人女子5名で、ショーツとブラジャーのみの着衣とした。

〔結果〕①冷感受性の部位差は30℃、25℃共に危険率1%で有意差がみられた。②尺度構成の結果、30℃の場合、冷感受性は、前面：前額>頬>手掌>顎>下腹>上腹>前腕>頸>胸>上腕>足背>肩>大腿>下腿、後面：足底>頸>手背>腰>上腕>背>大腿>胴・肩>前腕>下腿の順であった。おおむね、顔面>体幹>上肢>下肢の順であるが、手掌、足底は例外的に高い感受性を示し、また四肢、体幹とも屈側は伸側に比べて高い感受性を示した。③25℃における結果も同様の傾向を示した。